

[31_02]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470328>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 31 (2), 1998-06. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：



お 知 ら せ

平成10年3月からの計算サービス時間のお知らせ 113
 HDLC 接続及びISDNによるパケット通信, 第2種パケット通信サービスの廃止について 114
 Fortran 90/VP コンパイラ一部障害のお知らせ (VPP700/56) 115
 電子メールによるセンターニュースの配布 (CN-mail) について 115
 「九州大学大型計算機センターの利用に関する暫定措置を定める規定」の一部改正のお知らせ ... 120
 平成10年度利用者旅費について 123

平成10年3月からの計算サービス時間のお知らせ

平成10年3月1日から平成10年11月30日までの計算サービス時間は下記のとおりです。

計算サービス時間

システム利用	サービス時間	各種保守作業による停止時間
汎用コンピュータ M-1800 スーパーコンピュータ VPP700 分散メモリ型 CM-5 小規模並列コンピュータ	原則通年24時間 ただし, 右欄保守作業 の停止時間を除く	◇定期保守 毎週水曜日 5時~12時30分 ◇空調機保守 第1, 3日曜日 7時30分~18時
ライブラリサーバ S-4 端末サーバ	原則通年24時間	

センター内利用	曜日	開始時刻		終了時刻	
		通年		3月~11月	
オープン利用機器	月~火	9:00			
	水	12:30		22:00	
	木~金	9:00			

- 備考 1. 毎週水曜日は, 計算機システムの保守のため12時30分から計算サービスを開始します。
 2. 16時45分以降(月~金)と土曜日及び日曜祝日は, 無人運転を行っており, システム障害が発生した場合は, 約20分後に自動的に計算サービスを再開します。
 ただし, 30分経過後に再開できない場合は, 計算サービスを打切らせていただきます。
 3. 臨時の停止を行う場合は, その都度センターニュース等でお知らせします。

サービス時間表

曜日	時間帯			
	5:00	9:00	12:30	22:00
月曜日 火曜日				
水曜日		定期保守		
木曜日 金曜日				
土曜日 日曜日				

ただし, 第1, 3日曜日は空調機保守のため下記のとおりです。

日曜日	7:30		18:00	
		空調機保守		

利用可能
 センター外からの利用のみ可能
 定期保守等で利用不可

(システム運用掛 ダイヤルイン 092-642-2307)
 (センターニュース No.569, 平成10年2月16日発行)

HDLC接続及びISDNによるパケット通信，第2種パケット通信サービスの廃止について

フルスクリーンでアプリケーションが利用できるHDLC接続及び通信料金が低額で利用できる第2種パケット通信を昭和61年4月から，またISDNによるHDLC接続及びパケット通信を平成2年11月からサービスを行ってきましたが，最近のコンピュータ通信の多様化及び高速化のなかで，ここ数年利用されていません。よって，これらの回線を平成10年3月末日をもって廃止します。

なお，サービス廃止に伴い支障のある方はネットワーク掛にご連絡ください。
対象となる電話番号は，下表の網掛け部分となります。

接続システム	通 信 速 度	制御手順	電 話 番 号
MSP	2400～14400 (V.32bis)	TTY無手順	092-642-4257
	19200 (ISDN回線交換)	TTY無手順	092-642-1052 サブアドレス 310
	300～9600 (V.32) (学情網アクセス点接続)	TTY無手順	別表のアクセス点に電話をかけ，この後??NACSIS-NET??の表示に続いて9812000
	300/1200 (第2種パケット交換)	TTY無手順	163-060-9521608
	300～19200 (INSパケット通信)	TTY無手順	1-4401-9521608
	2400	HDLC	092-642-4258
	19200 (ISDN回線交換)	HDLC	092-642-1052 サブアドレス 300
UXP用 端末サーバ	64000 (ISDN回線交換)	PPP (同期)	092-642-4251
	2400～33600 (V.34)	TTY無手順	092-642-4256
		PPP (非同期)	
	9600～38400 (ISDN回線交換) 2400～14400 (V.32bis)	TTY無手順	092-642-4250
		PPP (非同期)	
	300～9600 (V.32) (学情網アクセス点接続)	TTY無手順	別表のアクセス点に電話をかけ，この後??NACSIS-NET??の表示に続いて9817400
300～19200 (INSパケット通信)	TTY無手順	1-4401-9524311	

(ネットワーク掛 ダイヤルイン 092-642-2309)

(センターニュース No.569, 平成10年2月16日発行)

Fortran90/VP コンパイラ一部障害のお知らせ (VPP700/56)

VPP700/56の単一PE上で動作するFortran 90/VPコンパイラに一部障害があったことが判明しました。内容、発生条件、障害のあった期間は下記の通りです。障害は各条件をすべて満たした場合に発生する可能性のあるもので、条件のうち一つでも該当箇所がない場合には発生しません。
なお、本障害は1998年1月28日(水)に修正済みです。

○ 発生条件

以下の条件の時、実行結果に誤りを生じることがある。

1. モジュールが存在する。
2. 1.のモジュールに副プログラムが存在する。
3. 2.の副プログラム内にequivalence文が記述されている。
4. 1.のモジュールの宣言部にinterfaceブロックが存在する。
5. 4.のinterfaceブロックで2.の副プログラムが宣言されている。
6. 3.のequivalence文で結合した変数の引用が存在する。

○ 障害のあった期間

1997年1月6日-1998年1月28日

(ライブラリ室 ダイヤルイン 092-642-2295)
e-mail:f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac

(センターニュース No.569, 平成10年2月16日発行)

電子メールによるセンターニュースの配布 (CN-mail) について

1998年4月より九州大学大型計算機センターでは、電子メールによるセンターニュースの配布を開始します。この電子メールによるセンターニュースを「**CN-mail**」と呼びます。CN-mailにより、センターからの連絡がより早く利用者の手元に届くこととなります。なおセンターニュースの電子メール化に伴ない、従来の紙面によるニュースは廃止いたします。御了承下さい。

九州大学大型計算機センター(以下、センター)から配送されるCN-mailを読むためには、電子メールを読むための計算機環境が必要です。電子メールは最も基本的なインターネット上の通信システムですので、ほとんどのセンター利用者は、各自の研究室で電子メールを読み書きできる環境にあるのではないのでしょうか。自分の研究室で電子メールを読み書きできなくとも、センターでは利用者全員に電子メールを使用できる環境を用意しています。ですから、大型計算機センターを利用されている方は、全員電子メールを読むことができる環境にあります。

また、最新および過去のセンターニュースはWWWを通じて閲覧可能です。WWWブラウザ(NetscapeやInternet Explorer)を御使用の方は、以下のURLからセンターニュースを閲覧して下さい。

<http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/users/news.html>

◆ CN-mailの配送先

センターからのCN-mailは、ライブラリサーバ **wisdom** (IP アドレス: **133.5.9.9**) に配送されます。配送後の処理は、申請書にメールアドレスを記入したかどうかによって異なります。

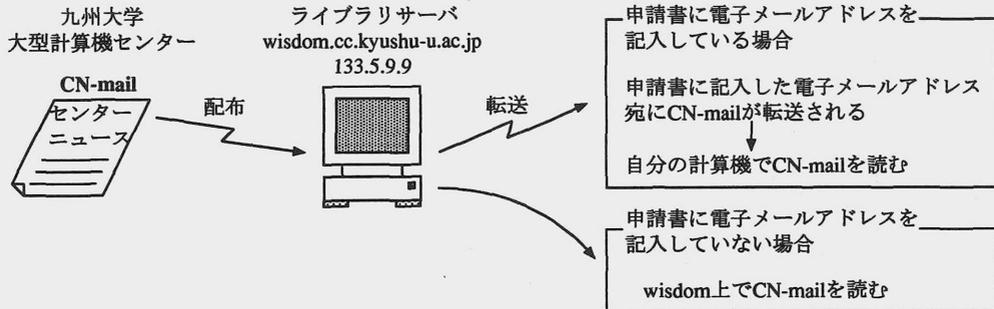
(A) 利用申請書または継続利用申請書に電子メールアドレスを記入している場合

申請書に記入したアドレス宛にCN-mailが配送されます。例えば、申請書に記述した電子メールアドレスが“myID@mylab.mydomain.ac.jp”である場合、いったんwisdomに配送されたメールは、wisdomから“myID@mylab.mydomain.ac.jp”宛に転送されます。転送には“.forward”ファイルを用います。“forward”ファイルについては「配送先の変更方法」で説明します。

(B) 利用申請書または継続利用申請書に電子メールアドレスを記入していない場合

センターのライブラリサーバ wisdom 宛にCN-mailが配送されます。例えば利用課題番号が

“a70099a”である場合，“a70099a@wisdom.cc.kyushu-u.ac.jp”宛にCN-mailが配送されます。CN-mailを読むためにはwisdomにログインして頂く必要があります。wisdom上での電子メールの読み書き方法は「wisdom上のメイラー」で説明します。



◆ 配送先の変更方法

CN-mailの配送先は、wisdomのホームディレクトリに置いてある“.forward”ファイルの記述内容によって決まります。“forward”ファイルは、電子メールの転送先を記述するファイルです。

(A) 利用申請書または継続利用申請書に電子メールアドレスを記入している場合

個人のホームディレクトリにある“.forward”ファイルに、申請書に記入した電子メールアドレスが記述されています。例えば、課題番号とCN-mail送り先アドレスが以下の場合、

大型計算機センターの利用課題番号	a70099a
申請書に記述した電子メールアドレス	myID@mylab.mydomain.ac.jp

wisdomの“a70099a”さん用のホームディレクトリに“.forward”ファイルがあり、そのファイルには“myID@mylab.mydomain.ac.jp”と記述されています。

(B) 利用申請書または継続利用申請書に電子メールアドレスを記入していない場合

ホームディレクトリに“.forward”ファイルは存在しません。

◇ 配送先変更コマンド：chfwd

“.forward”ファイルの記述内容を変更すれば、転送先が変わります。直接ファイルの変更を行なうのがわかりにくいという方のために、chfwdコマンドを用意しました。chfwdは、“change .forward”の略称です。

(a) “.forward”ファイルが存在する場合

chfwdコマンドを実行すると、以下の様に現在の転送先アドレスが表示されます。

```
wisdom % chfwd ↵
現在のCN-mail転送先アドレスは myID@mylab.mydomain.ac.jp です。
新しい転送先を入力しますか? (y/n) [n]
```

転送先アドレスの確認だけを行ないたい場合はリターンキーまたは[n]を押して終了して下さい。転送先アドレスを変更したい場合は[y]を押して下さい。[y]を押すと、以下のように転送先アドレスの入力に移ります。

```
新しい転送先を入力しますか? (y/n) [n] y ↵ ← [y]を入力します。
新しい転送先アドレスを入力して下さい。
newID@newlab.newdomain.ac.jp ↵ ← 新しい転送先を入力します。
転送先を newID@newlab.newdomain.ac.jp に変更します。
よろしいですか? (y/n) [n] y ↵ ← 同意する場合は [y]を入力します。
```

転送先を newID@newlab.newdomain.ac.jp に変更しました。

- (b) “.forward” ファイルが存在しない場合
chfwd コマンドを入力すると、以下のように出力されます。

```
wisdom % chfwd ↵
現在 CN-mail 転送先アドレスは指定されていません。
新しい転送先を入力しますか? (y/n)[n]
```

新たな転送先アドレスを指定したい場合は、[y] を入力して、その後表示される質問に応じて転送先アドレスを入力して下さい。入力の様子は、(a) の場合と同様です。

◇ 直接 “.forward” ファイルを変更

CN-mail の配送先 (受取アドレス) の変更は、 “.forward” ファイルの記述を直接変更することでも行なえます。以下に 3 つの場合における変更方法例を示します。

(1) wisdom から別の計算機で読みたくなった場合

新たに “.forward” ファイルを作成し、そのファイルに転送先の電子メールアドレスを記述します。

(2) CN-mail の受取先を、 “myID@mylab.mydomain.ac.jp” から “newID@newlab.newdomain.ac.jp” に変更したい場合

“.forward” ファイルの記述を “newID@newlab.newdomain.ac.jp” に変更します。

(3) wisdom 上と “myID@mylab.mydomain.ac.jp” の両方で CN-mail を読みたい場合

“.forward” ファイルに、 “myID@mylab.mydomain.ac.jp, \a70099a” と記述します。バックスラッシュ “\” は一部の端末では “¥” で表示されます。

◆ wisdom 上のメーラー、mnews の使い方

wisdom にはいくつかのメーラー¹が用意されています。コマンドラインから電子メール使うためには、mail, mailx コマンドなどが用意されています。mail, mailx コマンドの使用方法については、オンラインマニュアルを参照して下さい²。ここでは wisdom で使用可能なメーラーの一つである mnews の使い方について説明します。mnews (mini news reader) はネットニュースを読み書きするために開発されたソフトウェアですが、メールを読んだり書いたりすることもできます。

◇ 使用環境

mnews はコマンドプロンプトが表示されているウィンドウで利用できます。telnet でログインするウィンドウや、X 端末の kterm ウィンドウなどで利用できます。

◇ メールを書く

メールを書いて、送信するまでの手順を説明します。

(1) メールを書く

mnews が起動している状態で、[m] を押すとメールの記述を開始します。主宛先 (To)、コピー宛先 (Cc)、表題 (Subject) の入力を促されます。それぞれ必要な項目を記述します。

¹ mailer. 電子メールを読み書きするためのソフトウェア

² wisdom にログイン後、 “man mail” と入力して下さい。

(2) 本文の編集

Subject まで入力済むと、エディタが自動的に起動します。エディタには次のような表示がなされているはずでず。

◇ 準備

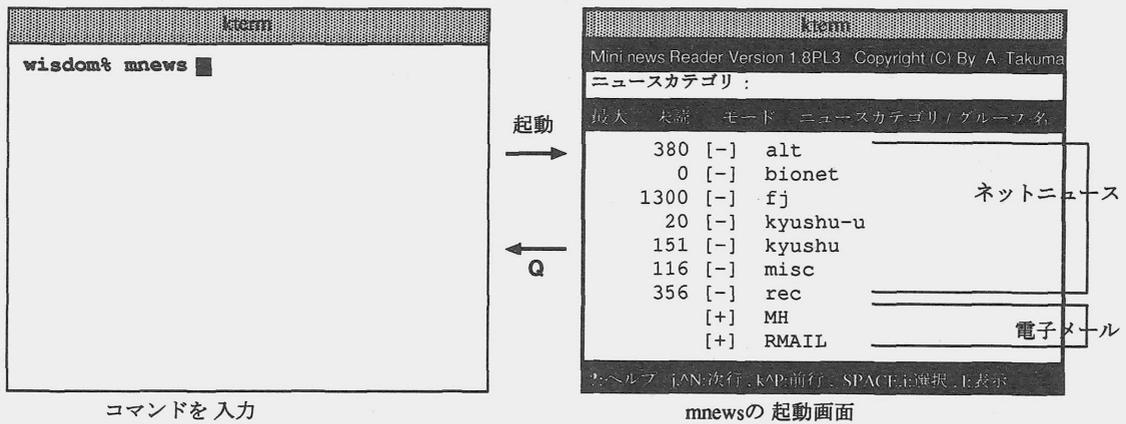
mnews は、Rmail や mail コマンドで読み書きしていた電子メールも扱うことができます。また MH と呼ばれるメール操作プログラム群も扱うことができます。電子メールの操作に MH を用いる場合、最初に使用する前に、一度 inc コマンドを実行する必要があります。始めて inc コマンドを実行すると、ホームディレクトリに“Mail”ディレクトリが無いので、次のように Mail ディレクトリを作成するように質問されます。[y] を入力して下さい。

```
wisdom % inc ↵
Your MH-directory "/home/user/a70099a/Mail" doesn't exist; Create it? y ↵
```

既に Mail ディレクトリが存在する場合には、“inc: no mail to incorporate”(到着メールなし) または “Incorporating new mail into inbox...”(到着メールあり) と表示されます。

◇ 起動方法

コマンドプロンプトで mnews と入力します。起動すると画面が図のように変化します。



mnews の起動

mnews の起動には時間がかかります。これはネットニュース記事を読み込むためです。ニュースは読まず、電子メールのみを読書する場合には、以下のように“-m” オプションを付けて起動して下さい。

```
wisdom % mnews -m ↵
```

◇ 終了方法

mnews が起動している画面で、[Q] (大文字) を押すと直ちに mnews が終了します。[q] (小文字) を押すと、1つ上のレベルに戻ります。最上レベルで [q] を押すと mnews が終了し、コマンドプロンプトが表示されます。

◇ ヘルプ

mnews 起動後に操作が分からなくなったら、[?] を押すとヘルプが表示されます。

◇ メールを読む

mnews を起動すると、最初はニュースグループと電子メールの選択ができます。電子メールを読む

ためには、[矢印]キーで MH または RMAIL にカーソルを移動して  を入力します。inc コマンドで読み込んだメールは MH を、Rmail で読んでいるメールは RMAIL を選択することで読めます。

To: request@cc.kyushu-u.ac.jp	←送信先のメールアドレスを記述
Cc: a70099a@wisdom.cc.kyushu-u.ac.jp	←ついでに届けたい相手の宛先
Bcc:	
Subject: Hello!	←表題を記述.
X-Subject:	←日本語の表題を記述.
--text follows this line--	←この行より下の部分に メールの本文を記述.

(3) 本文編集の終了

電子メールの記述が終了したら、内容を保存してエディタを終了します。

(4) シグネチャーファイル (署名ファイル) の付加

シグネチャーファイルを用意している場合、mnews の画面に戻るとシグネチャーファイルを付けるかどうか尋ねられます。[Y/N] で答えます。シグネチャーファイルが無い場合は、次の段階に移ります。

(5) メール内容の確認

完成したメールが表示されますので、間違いが無いかどうか確認します。[q] で確認終了します。

(6) 送信の決定

「記事を送信してよろしいですか? [Y/N/E(dit)/M(ime)]」と表示されますので、送信する場合は [y] を入力します。

使用環境	ターミナル画面	kterm, vt100 端末, 等のコマンド入力画面です。
起動方法	mnews	コマンドプロンプトで mnews と入力します。
機能	操作	説明
終了方法	q Q	1 つ上のレベルに戻る。最上レベルだと終了する。 すぐに終了する。
ヘルプ	?	[?] を押すと説明が表示される。
記事やメールの選択	→, >, SPC	レベルを 1 つ下る。
非選択	←, <,  , o	レベルを 1 つ上る。
メールを読む	SPC,  , C-n, C-d k, y, C-p, C-u	メッセージをスクロールダウン。 メッセージをスクロールアップ。
メールを書く	m	mail. To, Cc, Subject を入力する。その後エディタで電子メールの本文を編集。
返事を書く	r R	reply. 届いたメールに返事を書く。 メールを引用して返事を書く。
メールの転送	f	forward. 届いたメールを転送する。
メールの追加	I	incorporate. mnews 起動後に届いたメールを表示する。
リファイル	~	メールを別のフォルダに格納する。
削除マーク	d または D	delete. 削除マーク (D) を付ける。
マークの取消	u または U	undo. 削除マークを取消する。
マークの処理	DEL または BS	マークの付いたメールを削除する。

(広報教育室 : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp)

(センターニュース No.570, 平成10年 3月16日発行)

表2. 利用負担金新旧対照表

区 分		旧	新
演 算 負 担 金	バッチ処理	スーパーコンピュータ 3円/秒(5分まで) 1円/秒(15分まで) 0.4円/秒(15分超過分) 汎用コンピュータ 4円/秒(5分まで) 2円/秒(15分まで) 1円/秒(15分超過分)	同左 汎用コンピュータ 2円/秒(5分まで) 1円/秒(15分まで) 0.1円/秒(15分超過分)
	会話型処理 (旧TSS処理)	3円/秒(スーパーコンピュータ) 4円/秒(汎用コンピュータ) 1円/秒(並列計算機) 0.5円/秒(ライブラリサーバ)	同左 同左 同左 同左
入 出 力 負 担 金	プリンタ (旧プリンタ出力)	4円/枚 高画質カラープリンタ 180円/頁(A5判) 360円/頁(A4判) 大型カラープリンタ(A0判) 4,000円/頁	同左 同左 同左 同左
	端末接続	0.5円/分(専用回線又は交換回線を利用する場合)	同左
フ ィ 用 イ 負 担 金	ディスク	1円/500KB・日	同左
	マストレージ	500円/100MB・月	同左
ワークステーション負担金		3円/分	同左
データベース負担金		特定データベースの利用 3,000円/年(1種類) 5,000円/年(2種類以上)	同左
各区分共通負担金		各区分に従い算出した利用負担額の合計額に百分の五を乗じて得た額	同左
備考		1 並列プログラムで使用した場合の負担金については、各演算時間中その最長の演算時間を基に算出、17並列以上のプログラムで使用した場合各々2倍の単価 2 分散メモリ型小規模並列コンピュータ利用 3 利用者の登録番号別に月ごとに集計 ただし、データベース負担については、当該利用を開始した月に集計 4 利用負担金額の合計額 5 「特定データベース」	同左 同左 同左 同左 同左
施行年月日		平成9年4月1日	平成10年4月1日

参考 利用負担金表（現行）

区 分		負 担 金 の 算 定 基 準	
演 算 負 担 金	バッチ処理	スーパーコンピュータを利用する場合 1件の演算時間のうち1秒未満の端数があるときは、その端数を1分まで切り上げる。以下この表において同じ。）につき 5分を超え15分まで 15分を超え1時間まで 1時間の演算時間を超え	3円 1円 0.4円 4円 2円 1円
	会話型処理	スーパーコンピュータを利用する場合 汎用コンピュータを利用する場合 汎用コンピュータを利用する場合 汎用コンピュータを利用する場合 汎用コンピュータを利用する場合	1秒につき 1秒につき 1秒につき 1秒につき 1秒につき
入出力負担金	端末接続	専用回線又は交換回線を利用する場合 接続時間1分（1分未満の端数があるときは、その端数を切り上げる。以下この表において同じ。）につき	0.5円
	プリンタ	プリンタ用紙 高画質カラープリンタ用紙 高画質カラープリンタ用紙 大型カラープリンタ用紙	1ページにつき 1ページにつき 1ページにつき 1ページにつき
ファイル使用負担金	ディスク	使用期間 1日当たり 500キログバイト（500キログバイト未満の端数があるときは、その端数を切り上げる。）につき	1円
	マストレージ	使用期間 1月（1月未満の端数があるときは、その端数を切り上げる。当たり100メガバイト（100メガバイト未満の端数があるときは、その端数を切り上げる。）につき	500円
ワークステーション負担金	使用時間	1分につき	3円
データベース負担金	特定データベースを利用する場合 使用期間1年（1会計年度）当たり 1種類のみを利用し、データベース負担金を既に支払った場合の同負担金は （1種類のみに利用するものとす。）、 2、000円を加算するものとする。） 2種類以上を利用する	3,000円 5,000円	
各区分共通負担金	各区分に従い算出した利用負担金額の合計額に100分の5を乗じて得た額		
備考	<p>1 演算負担金は、バッチ処理の項中スーパーコンピュータを並列プログラムで利用する場合の負担金にコンピュータ演算時間その最長のプログラムで利用した場合の負担金の算出基準は、同項に規定する演算時間並列処理の項中分散メモリ型小規模並列コンピュータ利用の場合の負担金の算出基準とする。別に月ごとの利用負担金は、利用者の登録番号（利用番号）に基づき、当該利用を開始した月に集計する。ただし、データベース負担金については、センターが第三者との有償契約に基づき保有しているデータベースのうちセンターが指定したものをいう。</p> <p>2 演算負担金は、バッチ処理の項中スーパーコンピュータを並列プログラムで利用する場合の負担金の算出基準は、同項に規定する演算時間並列処理の項中分散メモリ型小規模並列コンピュータ利用の場合の負担金の算出基準とする。別に月ごとの利用負担金は、利用者の登録番号（利用番号）に基づき、当該利用を開始した月に集計する。ただし、データベース負担金については、センターが第三者との有償契約に基づき保有しているデータベースのうちセンターが指定したものをいう。</p> <p>3 利用負担金は、利用者の登録番号（利用番号）に基づき、当該利用を開始した月に集計する。ただし、データベース負担金については、センターが第三者との有償契約に基づき保有しているデータベースのうちセンターが指定したものをいう。</p> <p>4 利用負担金額（各区分共通負担金を除く。）の合計額が100円に満たない場合は、これを100円に切り上げる。</p> <p>5 この表において「特定データベース」とは、センターが第三者との有償契約に基づき保有しているデータベースのうちセンターが指定したものをいう。</p>		

(システム運用掛 ダイヤルイン 092-642-2307)

(センターニュース No.570, 平成10年3月16日発行)

平成10年度利用者旅費について

遠隔地の利用者が、本センターへ出向き計算機を利用する場合、利用者からの申請に基づいて利用者旅費が支給される制度があります。この制度は本センターを利用するための環境が、不十分な遠隔地の利用者の便宜を図るためのものです。本制度を利用して計算機の利用を希望される方は、下記により手続きをしてください。

記

1. 利用期間 平成10年4月1日～平成11年3月31日
2. 利用者の出張期間及び旅費支給基準

地区	出発地	出張期間	日当	宿泊料	備考
1～6	北海道, 東北, 東京, 名古屋, 京都, 大阪, 四国	4泊5日以内	円 1,700	円 8,700	センター内利用 期間: 3日以内
7	鹿児島, 宮崎, 沖縄	3泊4日以内	1,700	8,700	センター内利用 期間: 3日以内
	広島, 山口, 大分, 長崎, 熊本	2泊3日以内	1,700	8,700	センター内利用 期間: 3日以内
	上記以外の地域 (佐賀, 北九州等)	日帰り	1,700		センター内利用 期間: 3日以内

- a. 旅費は、国家公務員等の旅費に関する法律及び文部省所管旅費規則等の定めるところにより、鉄道賃の普通料金を支給します。ただし、片道50Km以上の場合は急行料金、片道100Km以上の場合は特急料金を支給します。また、日当・宿泊料については、上表のとおり、行政職俸給表(一)1級相当額を支給します。
 - b. 旅費の支給は、精算払いです。
 - c. 利用者は、所属の機関に設置された連絡所に備付けの「利用者旅費支給申請書」に必要事項を記入して当該連絡所に提出するものとし、提出を受けた連絡所は当該申請書の記入事項を確認の上、連絡所責任者印を押印し、申請者の所属長(実際には人事担当部署)に提出して、本センターに出張利用予定日の10日前までに必ず到着するように手続きをとってください。
 - d. 文部省科学研究費補助金(科研費)による利用者には旅費の支給はできません。
 - e. 出張利用は申請者本人に限ります。代理者による出張利用は認められません。
 - f. 宿泊所のあつせん等はいりませんので、利用者各自で手配してください。
3. その他

出張利用申請書を連絡所に提出しただけでは、旅費の支給が承認されたことにはなりません。本センターで申請の内容を審査し、該当する場合は、後日出張依頼書を連絡所宛に送付します。
なお、旅費については、予算の都合上出張期間の短縮を含め、調整させていただく場合がありますので、予め御了承ください。

(共同利用掛 ダイヤルイン 092-642-2305)
(センターニュース No.571, 平成10年4月16日発行)